

「 幸せの光の花 」



長い争いの日々が続き、傷ついた心と体を抱えた、大勢の子供達が眠る
真っ暗な部屋の片隅に、一厘の、“光の花”が咲きました

少年：「あっ?!」

光の花：「あなたには、私が見えるのね^^」

少年：「うん、見える」

光の花：「よかった！あなたは、絶対に幸せになれるわ！」

少年：「どうして？」

光の花：「私は、“幸せの光の花”だから。」

少年：「幸せの光の花？」

光の花：「そう！あなたは、今まで、どんな時が幸せだった？」

家族みんなでお祝いした、お誕生日？

友達と、遠くまで探検に出かけた時の事？

幸せはたくさんあるけど、それはぜんぶ、光の世界で起こっているの！

私は、その幸せのはじまる、一番最初の光だから」

少年：「幸せのはじまる一番最初の光、ぼくにはそれが見えるから、これから幸せになるんだね！」

光の花：「そう、必ず！でも、私の事が見えない子供が、まだたくさんいるの・・・

だから、あなたにお願いがあるの？」

少年：「わかった！何をすればいいの？」

光の花：「簡単よ！いつも私の事をみて、笑っていて欲しいの

そうすれば、あなたを見る人は、少しずつ私に気付いていく

光は、たくさんの人が見ればみるほど、どんどん大きく、強くなっていくの

いつのまにか、この部屋のみんなを包み込んでしまうわ！

あなたにはそれが出来る!!!

こんなにも暗く、淋しい部屋の中で

一番最初に、私に気付いた、もう一人の私だから。。。」